

もとづく地域診断と実施及び評価の事例

(2) PRECEDE (計画・実施部分)

小林郁<sup>(\*)</sup>、筒井昭仁<sup>(\*\*)</sup>、堀口逸子<sup>(\*)</sup>、中村譲治<sup>(\*)</sup>  
福岡予防歯科学研究会、<sup>(\*\*)</sup>福岡歯科大学予防歯科学  
教室、<sup>(\*)</sup>福岡県杷木町役場保健福祉課)

はじめに：杷木町では3歳児のう蝕を3年後に3本にする最終目標のために、50%の母親が1歳までに断乳を完了させる、1歳から3歳までの幼児の80%が継続してフッ素塗布を受けるという行動目標を設定した。この行動目標達成のために健康教育プログラムの開発と環境整備を行った。その計画と実施経過を報告する。

計画と実施：断乳の遅れを改善する健康教育プログラムの開発 乳幼児健診の場で各スタッフが  
行っている断乳についての教育内容を各自が独自  
開発した健康教育診断シートに各自が記入した。  
これを分析した結果、目標を達成するにはまず「母  
親が10ヶ月で断乳が可能な状況をつくる」ことが  
必要であるということ意見が一致した。次にそ  
のために必要な準備、実現、強化要因を検討した。  
準備要因として(断乳の遅れとう蝕の関係を知る)  
(スムーズな離乳食導入の知識を持つ) (断乳の  
知識を持つ) (自分の子供にはう蝕をつくら  
ない  
と決意し自信をもつ)が、実現要因として(ス  
ムーズな離乳食導入の技術を持つ) (断乳の技術  
を持つ)が、強化要因として(家族や周りの人が理  
解し支援する)が採択された。これらについての  
詳細な健康教育内容を断乳教育チャートにまとめ、  
改めて自分たちの指導内容を見直し、月齢に応じ  
たスタッフごとの指導内容一覧表を作成した。次  
に一覧表に基づき問診票を改定した。また母親自  
身が問診票に記入することによって保健活動の動  
機づけが起こり、指導内容の個別化ができるよう  
以下の内容を盛り込んだ。「3~4ヶ月児には育児  
の楽しさの度合い」「6~7ヶ月児には授乳と離乳  
の時間・断乳時期の自己決定・職場復帰の時期」  
「9~10ヶ月及び12ヶ月には夜中の授乳の有無・  
断乳の遅れとう蝕の関係に対する知識・職場復帰  
後の保育者・家族の協力度」である。さらに教育  
媒体として乳歯の萌出時期、断乳スケジュール例、  
町の保健行事を掲載した離乳食カレンダーを作成  
した。組織診断の結果、優先順位の上位に選出さ  
れた食生活改善委員会に協力を依頼し離乳食カレ  
ンダーを利用しう蝕予防に着眼した離乳食教室を  
計画実施した。

1歳から3歳までの幼児を対象にしたフッ素塗  
布事業 満1歳児の誕生月にフッ素塗布券を発行し  
町内の各歯科医院の協力のもと一回目のフッ素  
塗布を、その後は毎月の乳幼児健診を利用し3歳児  
まで3~4ヶ月毎に塗布が受けられるスケジュール  
表を作成し実施した。